

会議録

会議の名称	第3回加東市総合計画審議会		
開催日時	平成29年9月29日（金）午前9時30分～午前11時30分		
開催場所	加東市役所2階 201会議室		
議長の氏名（会長 梅野巨利）	出席及び欠席委員の氏名		
	<出席委員> ・池田 康 ・下山 絹子 ・竹内 貞美 ・田中 和美 ・友藤 富士子 ・藤井 信孝 ・三木 秀文 ・山本 直樹 ・梅野 巨利 ・須田 康之 ・藤原 壽郎 ・依藤 栄一雄 ・高瀬 久史 ・橋本 匡史 ・林山 祐子 ・藤井 悦雄 ・藤本 和之 <欠席委員> ・神戸 賢吾 ・横山 和夫 ・吉田 実宏		
出席した市の職員【事務局等】の氏名及びその職名	・副市長 吉田秋広 ・協働部長 時本敏行 ・協働部企画協働課長 長谷川茂 ・協働部企画協働課副課長 下岡正裕 ・協働部企画協働課主幹 小林寿泰 ・協働部企画協働課主事 戸田紘平		
市の職員【事務局以外】	・議会事務局長 芹生修一 ・総務部長 堀内千稔 ・市民生活部長 芹生泰博 ・福祉部長 丸山芳泰 ・まち・農整備部長 阿江孝仁 ・上下水道部長 利山尚由 ・会計管理者 松本和久 ・教育委員会事務局部長 西角啓吾 ・教育委員会事務局参事兼学校教育課長 藤原路寛 ・病院事業部事務局長 大橋武夫 ・協働部秘書広報課長 西山修三 ・協働部防災課長 肥田繁樹 ・市民生活部市民課長 藤川憲二 ・市民生活部保険・医療課長 鈴木敏久 ・市民生活部生活課長 眞海秀成 ・市民生活部健康課長 細川公代 ・福祉部社会福祉課副課長 藤井嗣人 ・福祉部高齢介護課長 藤井康平 ・福祉部子育て支援課副課長 菅野勇一 ・地域創造部まち未来課長 小林勝成 ・地域創造部農林課長 柏木和博 ・地域創造部商工観光課長 田中孝明 ・農業委員会事務局長 土肥彰浩 ・まち・農整備部土木課長 小坂征幸 ・まち・農整備部地域整備課長 大橋勝彰 ・まち・農整備部加古川整備推進室長 藤井義之 ・委員会事務局長 内藤修三 ・教育委員会事務局教育総務課長 大橋博英 ・教育委員会事務局学校教育課発達サポートセンター所長 山本京子 ・教育委員会事務局生涯学習課長 芹生和也 ・教育委員会事務局人権教育課長 大西祥隆 ・教育委員会事務局中央図書館副館長 田中美紀子		
1 議 題	(1) 第2次加東市総合計画前期基本計画（素案）について (2) その他 ・今後の予定について（第4回・第5回審議会、その他）		
2 会議資料	(資料1) 第2次加東市総合計画前期基本計画（素案） (資料2) 第2次加東市総合計画に関するアンケート結果報告書（単純集計結果）《速報値》 (資料3) 第1・2回加東市総合計画審議会に係る意見等に対する考え方等について【基本計画関係分】		
3 会議の経過	⇒別紙「第3回加東市総合計画審議会・会議の経過」のとおり		
平成29年10月24日	会長	梅野 巨利	
	副会長	三木 秀文	

(別紙) 第3回加東市総合計画審議会・会議の経過

発言者	会議の経過 / 発言内容
<p>委員</p> <p>教育委員会事務局参事</p>	<p>1 開会 2 会長挨拶 会長 3 協議事項 (1) 第2次加東市総合計画前期基本計画(素案)について(資料1) 構成を事務局、各政策を担当者から説明 【質疑応答等】 ◆ P15(1) 小中一貫教育の推進 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども見守り隊の活動をしているが、徒歩で通学することにより体力がつくとともに、地区の人との関わりもできる。通学距離が3km以上の子どもはスクールバスの利用になるとのことであるが、地区の人との関わりが薄くなると懸念している。一貫校になることのメリットとデメリットをどのように考えているのか。 ・通学距離が3km以上の児童はスクールバスを利用することになるが、スクールバスの集合場所までの道のりや通学距離が3km未満の子どもたちの通学路などにおいて、PTAや子ども見守り隊には引き続き協力いただきたいと考えている。 ・小中一貫校のメリットは、小中学校のつながりがスムーズになる点である。同じ校舎内に小中学校の教員がいるので学習面、生徒指導面で協力しながら進めていける点大きい。 ・デメリットは、小学校と中学校の教員では授業の教え方や部活動等の関わり方が違うという点であり、開校までに解決できるよう検討する。
<p>委員</p> <p>教育委員会事務局参事</p>	<p>◆ P23(5) 健全な子どもを育てる環境づくり について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健全な子どもを育てる環境づくりにおいて学校教育は重要であるが、教職員が働く環境も重要であり、良い教育者を育てるためのサポートが必要である。挨拶や人との関わりを身につけさせ、子どもの興味や関心を引き出せる教職員の指導の強化などに今後取り組む予定はあるのか。 ・教員の質の向上は大切な要素と考えており、これまでも研修の充実に取り組んできた。若手教員が増える中、今後も兵庫教育大学と連携しながら、それぞれのキャリアステージに応じた研修を進めたいと考えている。
<p>委員</p> <p>教育委員会事務局参事</p> <p>生涯学習課長</p>	<p>◆ P15(1) 小中一貫教育の推進、P27(7) 市民文化の創造の促進 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育で新しく組織が変わるが、学校区の再編は考えられているのか。 ・「資料館等の来場者数」の指標において、歴史民俗資料館や武家屋敷の来場者数が合算されているので、その内訳を知りたい。 ・学校区の再編は考えていない。ただし、区域外就学の規定があり、部活動の有無やいじめ問題等があれば相談に応じる。 ・平成28年度の入場者数の内訳は、歴史民俗資料館が786人、武家屋敷が414人となっている。
<p>委員</p> <p>生涯学習課長</p>	<p>◆ P23(5) 健全な子どもを育てる環境づくり、P33(10) 生涯スポーツ・レクリエーションの推進 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、企業では急速に労働の時間短縮が進んでおり、会社としても退社後の余暇の有効利用に気を使っている。空いた時間を有効に使えるよう、地域に貢献する活動やボランティアの登録などの仕組みづくりができないか。 ・体育協会や体育指導委員の委員会の中でも検討していきたい。
<p>委員</p>	<p>◆ P19(3) 心の教育の推進 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保護者・地域への道徳授業公開率」の指標の基準値が100%となっているが、これは公開していることを案内していることと捉えているのか。参加率等で

<p>教育委員会事務局参事</p> <p>企画協働課長</p>	<p>なければ、現状100%であり、この指標が必要ないとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度から道徳は特別の教科になり、重要視される分野である。100%としているのは、どの学校もオープンスクール等による公開授業を行っているためである。今後もそれを維持していきたいと考えており、平成34年度になっても道徳の教科は引き続き行う必要があるため、このような目標値になっている。
<p>委員</p> <p>教育総務課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を作る担当部署としては、100%の指標は適切ではないと考えている。例えば、地域の方が公開授業に参加された際の満足度等を指標とするなど検討させていただきたい。 <p>◆ P21(4) 学校教育環境の充実 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P21のトイレの洋式化について、進捗状況を知りたい。 ・学校全体では4%が洋式化されている。小中一貫校開校に伴い、最終的には80%を目指して計画している。
<p>委員</p>	<p>◆ P65(26) 障害者・要援護者福祉の充実 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育や発達障害のある生徒についての施策は進んでいるが、中学を卒業して特別支援学校に行く人が県内で増えている状況に対して、特別支援学校卒業後の受け皿は少ない。福祉事業者が自前で施設を建てるのは難しく、どの施設も部屋が空いていない状況を踏まえ、「②障害者の生活支援の強化」では長期的な視点に立ったサービス提供体制の強化についての内容を考えていただきたい。 ・空き家の問題がある中で、空き家をデイサービスセンターやグループホーム等の福祉施設に活用するなど横断的な施策を考えていただきたい。
<p>社会福祉課副課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者の支援施設については、現在、障害者の短期入所支援施設が無く、共同生活支援サービス提供事業者も3ヶ所と不足している。重点的に取り組まなければならない課題であることは認識しており、長期的な方向で近隣市町の事業者の参入を呼び掛ける等の取組をしたい。
<p>委員</p>	<p>◆ P83(35) まちの魅力向上の推進、P87(37) 観光の振興 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シティプロモーションにおいては内向きのプロモーションが多い印象がある中で、民間企業と連携した情報発信などは考えられているのか。 ・他都市の人が抱く市のイメージでは東条湖の印象が強いと思うが、交通インフラが整備されていないのに知名度は高いというバランスの悪い状態である。今後、市は東条湖をPRに活用されるのか、そのPRに伴うインフラ整備やハード的な設備投資、観光事業者との連携したPR等は考えられているのか。
<p>まち未来課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・シティプロモーションについては、市のみならず、市民、企業も情報を発信する、情報のあふれるまちが住みよいと考えているので、そのようなまちを目指している。今後は事業者との連携も想定して進めたいと思っている。
<p>商工観光課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東条湖については、市内で一番知名度が高い観光地であることは認識しており、東条湖を活用した観光振興が必要だと考えている。平成30年度から具体的な取組について関係事業者、地元区長等とどのような形でPRを進めるかについて協議したいと考えている。
<p>企画協働課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交通アクセスについては、地域公共交通網形成計画の中で、「東条湖周辺には歴史的な神社仏閣や観光施設等が点在していることから、東条湖おもちゃ王国が運行する無料送迎バスとの連携や新たな地域公共交通の導入について、観光関係者や交通事業者と協議する」としている。ここが一大観光スポットであることは十分に認識しており、アクセスについても検討したいと考えている。
<p>委員</p>	<p>◆ P79(33) 鳥獣被害対策の推進 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の地域はイノシシの被害が多くあるため、侵入防護柵を設置しているが、道路を遮断するような設置はできないのでイノシシが道路を渡って来る。何か良い方法があれば教えていただきたい。

農林課長	<ul style="list-style-type: none"> ・猟友会が高齢化しており、新しい人が入って来ないので、狩猟免許更新の補助だけではなく、猟友会に対する補助制度を見直してほしい。 ・道路を跨ぐ防護柵の設置は、道路管理者の許可が必要であるため難しいかもしれないが、ご相談いただき、金網を高くする等の対策を一緒に考えたい。 ・猟友会に関しては、狩猟免許取得に対しては補助制度があり、現在、新たに受験する人を増やすために制度の拡充を検討している。ただ、今の要項では、試験に合格して猟友会に入らなければ補助金を交付できないので、その点も検討したい。また、捕獲に対する報奨金の予算を平成29年度から増やしており、捕獲が多いほど猟友会へ支援ができる形としている。
委員	<p>◆ P97(42) 農村環境の整備 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ため池について、順番に耐震改修をされていると思うが、9月17日の台風の影響でため池の法面の土砂が崩れているところがある。10日ほど経つ現在もブルーシートを被せているだけで、危険な状態だと感じた。そのような緊急対策について、発生後どの程度の期間で改修するのか。
地域整備課長	<ul style="list-style-type: none"> ・農業災害として国の災害事業での復旧を考えている。10月早々に測量し、国からの査定を11月に受け、事業執行は年明けになる。その間、ため池は地元の施設であるため、地元で管理いただき、市も監視を続けていく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業執行が年明けということはしばらくブルーシートのままになるが、かなり広範囲であるため、心配である。
地域整備課長	<ul style="list-style-type: none"> ・集中豪雨が予測される場合はそれなりの対策を講じるが、今から雨の少ない時期になるので、通常の工程に従って行う。国の補助事業で行うため、国の許可が必要であり、時間がかかる。
委員	<p>◆ P73(30) 力強い農業経営の実現 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業従事者の高齢化が進んではいるが、農業のノウハウを有する地域の立派な人的資源なので、皆で地域の農業を支えていくようなシステムづくりが良いのではないかと。余暇の過ごし方に関する話があったが、空いている時間に農業をしてみようような仕組みができれば良いのではないかと。 ・10年先を考えると、生まれてくる子どもよりも亡くなる高齢者の方が多いと考えられる。加東市に住んで、加東市で暮らし、加東市で亡くなって良かったと思われるようなまちづくりができれば良いと思う。
農林課長	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進み、後継者不足は直面している問題であるが、高齢者の方が頑張っている農業に従事されているのも事実である。将来を見据えて対策するうえで、現役で頑張っている農業者が新しい農業者に技術を継承いただければ新たな農業者も増えると考えている。全体的にはその辺りも検討していきたい。
委員	<p>◆ 社会潮流の変化に関する記載について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会潮流の変化について、第4次産業革命が始まりロボットやAI等が産業構造を変えてしまうと言われていたが、それに関するところが政策IVに書かれていない。今年の5月に経済産業省が新産業構造ビジョンを体系的に発表しており、ある程度具体性があるので、P107「(47)社会潮流を的確に捉えた行政経営の推進」の中で「新産業構造ビジョンも考慮する必要がある」という文言を入れる検討が必要ではないか。
協働部長	<ul style="list-style-type: none"> ・次回のテーマになるが、市でも電子化をどのように進めるかを示した「電子自治体推進計画」を策定している。現在、当該計画のアクションプランの作成に取り組んでおり、その中でそのような社会潮流の考え方を示していく。 ・トーンダウンとして受け取られる表記かもしれないが、鳥獣対策においてドローンやICT技術を活用した対策を記載している。
委員	<p>◆ P35(11) 人権施策の総合的推進 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加東市には外国人が多く住まれているので、増加に対する準備について施策に織り込む必要があると考える。特に日本語教育の支援や外国人に対する差別意識の

企画協働課長	<p>ない視点の醸成、窓口における外国人への対応について組み込まれると良いと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加東市には1,000人以上の外国人がおり、外国人に対する事業も必要であると認識している。次回のテーマになるが、P109にあるように「在住外国人施策の充実」の取組として、外国人との共生について記載しているので、次回にまたご意見をいただきたいと思う。
委員	<p>◆ P79(33) 鳥獣被害対策の推進、P73(30) 力強い農業経営の実現について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若年層を育てるのであれば、射的の競技でオリンピックを目指すシステムを構築し、将来的に猟友会で活躍していただく仕組みを作ると良いのではないかと。すでにゴルフは、ゴルフ場と協力して子どものスクールを始めているので、鳥獣被害対策もそのような面で支援できれば良いと考える。 ・農業従事者について、「いずれ農業をしなければならぬ」と考えている世代に向けて、草刈り機等の機械操作の講習会を実施するなど徐々にサポートしてもらうシステムを整備すれば農業に関わりやすくなると思う。
農林課長	<ul style="list-style-type: none"> ・猟友会の新たな会員を育成するためにオリンピック選手を目指すというアイデアは斬新であるが、猟銃＝(イコール)シューティングになるかどうかはすぐに答えられないので、一度考えてみたい。 ・草刈機の講習会等については、本来、集落営農を立ち上げ、その中で様々な取組をしていただく方が良く考えている。ただ、すべての集落に集落営農があるわけではなく、農協との連携も必要になる。持ち帰って検討したい。 <p>4 その他</p> <p>(1) 今後の予定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第4回審議会 10月24日(火) 9:30～11:30(予定) 市役所2階 201会議室 内容：政策Ⅶ・Ⅷ、基本計画その他部分、基本構想(素案)等 ・第5回審議会 1月26日(金)14:00～16:00(予定) 市役所2階 201会議室 内容：パブリックコメントの結果について、答申について ・その他 パブリックコメント(予定):11月下旬～12月下旬(30日間) 意見等の提出期限：10月11日(水) <p>5 閉会 副会長</p>